



『水の都』東京の顔となる拠点の形成

官民連携 両国リバーセンタープロジェクト



両国国技館



江戸東京博物館



回向院



旧安庭園



両国防災船着場

まちと川を結ぶ拠点

両国地区は、両国川開きや大相撲など江戸時代の文化の発信地であり、かつての江戸のにぎわいの中心でした。現在では、両国国技館や江戸東京博物館等の施設が立地し、歴史・文化に係る観光資源が集積する拠点としてブランドを確立しています。

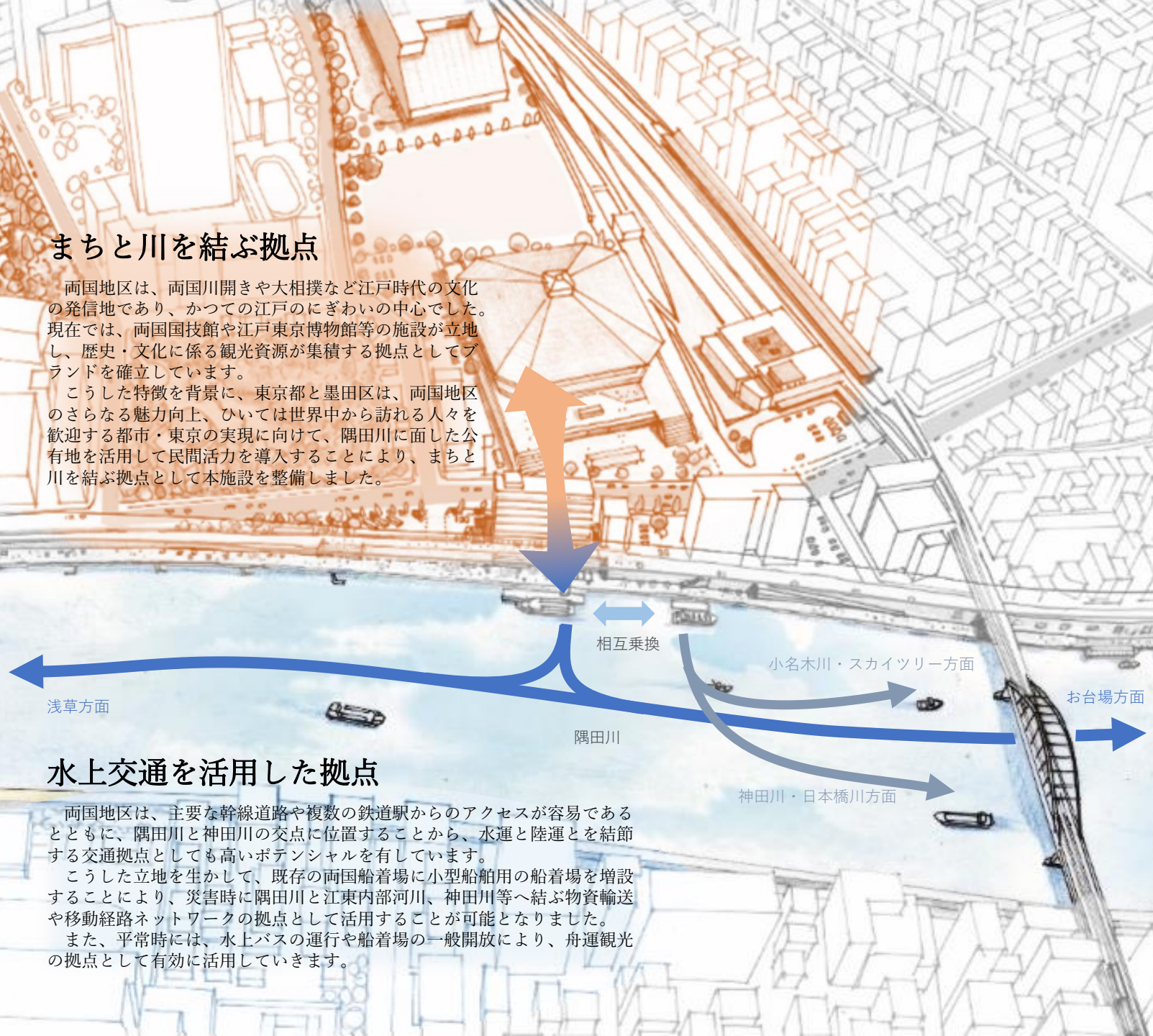
こうした特徴を背景に、東京都と墨田区は、両国地区のさらなる魅力向上、ひいては世界中から訪れる人々を歓迎する都市・東京の実現に向けて、隅田川に面した公有地を活用して民間活力を導入することにより、まちと川を結ぶ拠点として本施設を整備しました。

水上交通を活用した拠点

両国地区は、主要な幹線道路や複数の鉄道駅からのアクセスが容易であるとともに、隅田川と神田川の交点に位置することから、水運と陸運とを結節する交通拠点としても高いポテンシャルを有しています。

こうした立地を生かして、既存の両国船着場に小型船舶用の船着場を増設することにより、災害時に隅田川と江東内部河川、神田川等へ結ぶ物資輸送や移動経路ネットワークの拠点として活用することが可能となりました。

また、平常時には、水上バスの運行や船着場の一般開放により、舟運観光の拠点として有効に活用していきます。



民間と行政が連携した水辺の拠点施設の整備 両国リバーセンタープロジェクト

新たな事業スキーム構築により行政の費用負担実質ゼロで実現



Anchor Ryogoku Riverside (ホテルレストラン)

隅田川を望むリバーサイドレストラン。「かわてらす」席やバーカウンター等、いろいろなシーンに合わせた楽しみ方ができます。



水上バス待合所

舟運利用者のための待合スペースで、東京の水辺を堪能する舟旅へ両国からご出発いただけます。



ザ・ゲートホテル両国 by HULIC

滞在型観光の拠点として、国内外から集う多くの人をおもてなします。

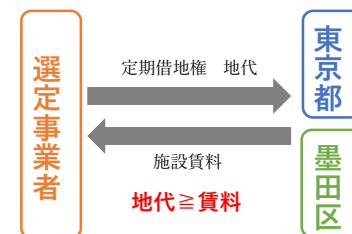


両国子育てひろば

親子で遊びながら親同士、子ども同士が交流し、子育てに関する悩みを話し合ったり、情報交換ができます。



事業スキーム



定期借地権（都・区の公有地、約50年間）を設定し、民間事業者の負担により設計・建築しました。

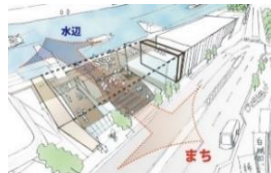
建物内に、都・区がテナントとして入居することで、地代と賃料の交換により、行政の負担が実質ゼロで、地域に必要な施設の整備が実現しました。



回遊、滞在の拠点として、多彩な地域の魅力を発信し、にぎわいを生み出し続ける

回遊の拠点

水辺とまちをつなぎ、多様な人が往来する開放的な空間を創出しています。まち歩きやクルージング等、リバーセンターがそれぞれの旅の基点となっていきます。



滞在の拠点

ホテルやレストラン等のさまざまな滞在施設を有し、訪れる方が思い思いに水辺で過ごすことができます。



多彩な地域の魅力を発信

隅田川テラスや防災船着場を活用したイベント等の開催により、多彩な地域の魅力発信の場としても活用していきます。





『水の都』東京の顔となる拠点の形成 官民連携 両国リバーセンタープロジェクト
令和2年10月発行 登録番号(2)39
東京都建設局河川部 TEL 03-5320-5486
東京都建設局ホームページ
<https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/>